

ながつかパトロール隊（山梨県）

活動地域

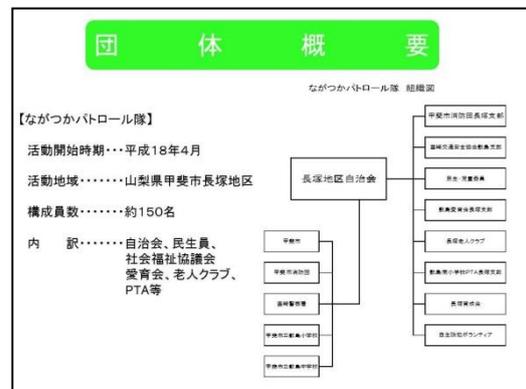
ながつかパトロール隊隊長の青柳です。よろしくお願
いします。私どもの活動地区である山梨県甲斐市長塚区
についてご説明致します。山梨県は北東部に秩父山塊、
西部に3,000メートル級の山々からなる南アルプス、南
部には富士山、そして、北部には八ヶ岳や茅ヶ岳などの
山々に囲まれているほか、日本三大急流の一つである富
士川や、日本三大湖沼の一つである富士五湖を有する自
然に恵まれた環境にあります。生産量が日本一であるブドウ、モモ、スモモに代表される
豊かな果実、温泉、ワイン、武田信玄ゆかりの史跡など多くの観光資源に恵まれており、
夏の行楽期を中心に多くの観光客で賑わっています。



甲斐市長塚地区は、県都甲府市と隣接し人口が増加している地域で、マンション、アパ
ート、一戸建ての賃貸住宅を含め、約1,300世帯、約2,800人が暮らし、甲斐市の中心で
人口、世帯数最大の地域です。地形は、南北に県道が走り、南方にはJR中央本線、そし
て一級河川の貢川が流れており、地区のほぼ中央に敷島南小学校があります。長塚はその
昔、田畑に恵まれたのどかな地域でしたが、近年急激に宅地化が進んでおり、新興住宅へ
と様変わり致しました。しかし、一步路地に入りますと、狭い道幅の道が多く、防犯、交
通安全の観点からも危険な場所が見受けられます

団体の概要

私たちの団体の概要、組織づくりのきっかけについてお話し致します。今から7年ほど
前の平成18年のこと、そのころ、私たちの地域はさまざまな団体が、それぞれに防犯に関
してばらばらに活動している状況でした。例えば、老人クラブの人は、市からの要請
に基づき、小学校児童の下校時に各所での見
回りをしていました。また地域の愛育会という会
のメンバーは、児童を学校まで迎えに行き、
家庭まで送り届ける活動をしていた。こうし
た活動をお互いに連絡を取らずに行っていた
わけです。こうした中、折しも、全国各地で
は児童が被害に遭う事件が多発していたこと
もあり、自治会として、自主防犯ボランティ
アの組織づくりに取り組むこととなり、地区
でそれぞれの活動をしている団体の代表者を集め、活動内容について確認した結果、それ



それぞれの団体のこれまでの活動を継続し、さらに自治会で青色防犯パトロールを運用するということが決まったわけです。

このように、地区の住民が協力し、効率的に活動することが可能となりました。当時、こうした防犯ボランティア活動をする団体に、山梨県から助成金がいただけるということで、地域活性化促進事業に応募し、そろいのジャケット、たすき、帽子、腕章を購入しました。

活動の概要

私たちの活動の基本は、地区の子供たちの安全を見守ることです。敷島南小学校に通う児童の登校時には、地区の踏切や見通しの悪い交差点などを中心として、青色防犯パトロール車両による見守り活動を行っております。また、下校時には、小学校から児童の下校予定の情報を提供していただき、その予定に基づいて、老人クラブ、愛育会の皆さんが見守りを行っております。また、下校時は、時間が合う青色防犯パトロール隊員が通学路を広範囲にパトロールし、安全を見守っております。

もう一つの中心的な活動は、今も紹介しました青色防犯パトロールです。青色防犯パトロールは、団体としての活動が始まってから約1年半後の平成19年9月に、山梨県警察本部長より青色防犯パトロール実施団体としての証明書の交付を受け、当初車両7台、実施者19名でスタートしました。メンバーは、パトロール隊員と、自治会役員を終えた方の中で継続して活動していただける方によって構成されています。現在は、車両16台、実施者22名のメンバーを有するまでになりました。パトロールは、小学校や住宅密集地のほか、地区全体を網羅できるように、隊員それぞれが工夫を凝らして実施しており、パトロール中に地区の側溝のゴミや防犯灯の電灯点検などを実施し、地区担当者へ連絡し、改善させることもあります。

青パトは平日、児童の登下校時と、正月三が日以外の夜間毎日、実施しています。夜間のパトロールは、特に時間を定めず、隊員の活動できる時間帯に行うことで、時間やコースにランダム性が出ますし、活動しやすくなります。青パトに限った話ではないですが、活動するメンバーの人数が多ければ多いほど、1人当たりの負担が軽減されていきますので、今後もどんどん、メンバーを増やしたいと思っています。



また、隊員相互の情報共有の場として年一度の総会と研修会を実施しております。総会は、これまでの活動の報告と今後の活動予定について決定する場になっており、隊員の意見交換も行っております。また、研修会では、地域の犯罪情勢や問題点を共有することや、今後のパトロールの参考になるような研修会を開いています。これまでも葦崎警察署の警察官や県職員を講師に招き、犯罪情勢や災害対策を内容とした講義をしてもらい、隊員の知識を高めているところでございます。

このほか、私たちは地域の皆さんに活動を周知することも重視しています。警察や私たち防犯ボランティアの活動だけで地域の犯罪を抑止することは限界があり、地域住民の一人一人が防犯意識を持つことが大切だと考えるからです。少しでも私たちの活動について知ってもらい、防犯意識の向上に役立ててもらえればということで、総会、研修会の模様を記録した「青パト見聞録」という広報誌を作成し、回覧したり公民館に掲示したりしています。これが、前年の総会後に発行したA4サイズの「青パト見聞録」です。内容は、総会以外に、地域の駐在所からのお知らせ、敷島南小学校校長との対談等、地域に密着した話題を入れ、盛りだくさんの情報を提供できるよう工夫しています。他の地区からの注目を集め、参考にしたいとの問い合わせもいただいているところです。

活動概要 ③
～情報の共有編～

- 隊員相互の情報共有
～年1回の総会及び研修会の開催～
 - 警察署員等による犯罪情勢
 - 県職員による災害対策



活動概要 ④
～青パト見聞録～

- ◎ 地域住民への情報発信
～目的～
 - 地域住民への防犯意識の啓発
 - 地域住民への青パト活動紹介(周知)

↓

青パト活動への参加促進！！

青パト見聞録



**青色防犯パトロール
継続活発化への施策**

- ◎ 青パト隊員への支援
使用車両の燃料費一部自治会負担！
内容：出動日数に応じて燃料費を支給

**隊員の平均年間活動日数
約150日！**



次に、青パト活動を継続させるための施策についてご説明致します。先ほどもお話ししましたが、私どもの活動は基本的には正月三が日を除く毎日です。青色防犯パトロールは登下校時の他に、夜間も行っております。使用している車両は現在のところ隊員の所有車両であり、ガソリンなどの燃料費も自己負担しております。しかし、年間平均150日にもおよぶ安全パト

ールに出動していただく隊員の皆さんの負担は計り知れないものがあり、その一部でも支援できないかと日々考えておりました。そのような中、自治会で様々な活動に対する予算を決定する中で、青パト隊員の使用するグッズの購入のほか燃料費の一部の支援が始まったわけです。ボランティア活動であり、燃料費などの負担は当然のことと考えますが、少しでもこうした地域の支えがあると、活動が継続しやすくなっていくと思っております。

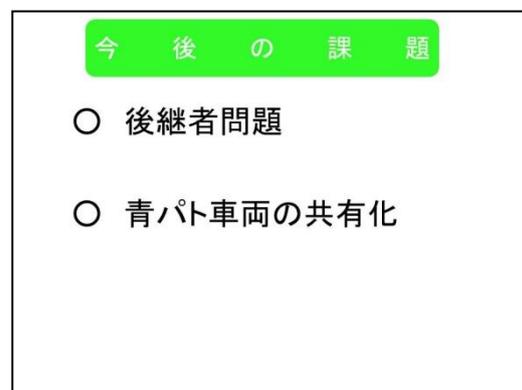
私たちは、地域や登下校時の児童の安全を見守るために活動していますから、地域の抱える様々な問題、特に児童の安全に関わる問題には積極的に関わっています。代表例が、このJR中央本線にかかる長塚第二踏切問題です。この踏切は、敷島南小学校に通う児童が毎日使うと同時に、通勤、通学のために住民が地区の南方に抜けるための重要な踏切ですが、行き来する人、車の台数の割に幅4.4メートルと狭く、児童と通勤車両がすれ違う際に非常に危険な場所です。こうしたことから、市やJR東日本等に働き掛けを行っています。長塚パトロール隊の発案により、地元自治会、敷島南小学校PTA、敷島南小学校の3団体で構成する長塚第二拡張推進協議会を昨年11月に発足させ、日々の見守りと並行して、踏切の拡張が進むような活動を行っております。



活動の効果と今後の課題

今後の課題としましては、どこの団体でも同じようなことだろうと思いますが、現在活動しているメンバーは60歳以上の者が大半です。現役世代の方々にも参加してもらい、この活動が末永く継続されていくことが理想だと思っておりますが、なかなか解決しない問題だなと思っております。少しでも地域の皆さんに活動を理解していただき、関心を持ってもらえるよう努めていきたいと思っております。

また現在、青色防犯パトロールは隊員の車両を使用しているところです。日本財団さんから助成制度があるということもお聞きしましたので、申請を検討したいと思っております。自



治会のランニングコストなどの検討も重ねて、車両購入ということも実現に向けて検討したいと思います。

最後になりますが、平成 19 年からスタートした私たちの活動は、朝夕晩のランダムなパトロールです。それゆえに地区内で常に起こり得る大事件、凶悪事件、またはこれらに発展する前の小さな事件をも防止する効果があるものと自負しております。隊員全員が誇りに思っております。これからも、なお一層、活動の輪が広がり、犯罪のない住みよい地域実現に向けて、頑張っていきたいと思っています。ご清聴、ありがとうございました。